

2016.7.26

この日（表題）から私と家内の人生（生活）が変わってしまいました。

朝、5時15分家内の友人からの電話で起こされテレビのスイッチを入れ愕然とした。

津久井やまゆり園、元職員による利用者殺傷事件の映像だった。死者15名のテロップが流れていた、とるものもとりにあえず園に向かい、やまゆり園の近くで警察の方々に止められ事情を話し、何とか園の中に入ったのが7時半頃（この辺から私の頭はパニック状態だった）息子の〇〇の居室に行こうとしたが、規制線が張られ入れず、体育館に入ると2,30人の人たち（被害に遭わない利用者と職員）が居た、一人の職員が（〇〇さんこちらです）と管理棟の中の部屋（普段はグループ活動室）に案内され、そこにはみどり会会長、副会長他2名が居た、大きなテーブルが置かれ、テーブルの上に、A4の紙が4枚あり利用者全員の名前が書いてあったと記憶しています、いぶきホーム利用者が書かれている紙を見たら名前の横に○が5個、×が4個の印しついていた、会長に聞いた、○は被害が無く今、体育館にいる利用者で×は死亡した利用者、無印の利用者は救急搬送された利用者だと言われ、〇〇の名前の横に、立川災害医療センターと書いてあった。すぐの娘に電話し、立川災害医療センターに確認の電話を入れさせた、折り返し娘から返事が有り、救急隊から連絡は受けている被害者はまだ到着していないが家族はすぐに来るようにと言われた。私は、すぐに車（孫の嫁が貸してくれた）に乗り、カーナビをセットしようとしたが、頭が混乱状態で手が動かない、それを見ていた職員が（〇〇さん私がセットしてやる）といい医療センターを打ち込んでもらい病院に向かった。医療センターについたのが9時半頃、3Fの救命救急棟に入り、看護師さんから〇〇〇〇さんは先ほど（9時）から手術室に入りました手術が終わったら先生の説明が有ります、それまで控室にと言われ、生きた心地がしないまま控室に、この時ほど時間が長く感じた事は無かった。12時頃、手術が終わり執刀医の説明では、首、4針、喉3針、両手の内側の裂傷、左手の甲5針、そして腹部深さ4cm、大腸がほとんどちぎれる寸前でした、開腹し、内部を洗浄し、大腸を縫い合わせましたと聞かされました。そして、執刀医に、手術は成功しましたが、助かりましたとは言えませんと言われた。それは、〇〇〇〇さんの血液型は、A型で、救急車のなかでかなりの輸血をしていますが救急隊が積んでいる血液はすべてO型なので、〇〇さんの体の血液反応等で明日の朝まで予断を許さない、といわれた、どこをどう走って家に帰ったのか記憶にない、ただただ朝まで病院から電話が有りませんようにと願っていました。翌27日、私の体の調子も良くないのでやまゆり園の職員にお願いした。職員が病院に行き、〇〇の無事を確認、私に知らせてくれた。〇〇が私達の所へ帰ってきてくれたと家内と抱き合って泣いた。私の体調の都合で〇〇に逢いに行ったのは28日だった、上の孫が車で連れて行ってくれた。集中治療室の〇〇を見たら、小さい時から、私達の事を一度もお父さん、お母さんを読んだことが無い〇〇が私の顔を見た途端、お父さん、お父さん、お父さんと何度も私の名前を読んでもらったのです、私が治療室に居る間（30分位）ず〜とお父さんの連呼です、私は嬉しくて、嬉しくて、〇〇を抱きしめ、泣きました。家内も孫も一緒に号泣しました。私は、〇〇がこんなに私の事を愛してくれ

たんだと気づきました。そして私はこの子の父親で本当に良かったと感じるとともに〇〇に感謝に気持ちでいっぱいでした。そして家内と誓いました、この子の幸せのために私たちの人生をかけようと。

事件の翌日（27日）から私の家にNHKテレビのディレクターが日参し、3日目、熱意に負けて取材に応じました。実名報道と顔出しも許可し、31日（日）のNHKスペシャルに流れました（取材等に関して、かながわ共同会、津久井やまゆり園、みどり会の方々が取材拒否をして報道人の前でなにも語らない、今日この時点（12月24日）においてもです。

この前代未聞の大事件にもかかわらず、事件の現状が知らされていないことに疑問を感じます。私達は被害者の家族なんです、悪いことをしているわけでは有りません。家族（利用者）が痛い思いをしたり、つらい思いをしたり、私たち家族それぞれが大変な思いをしたことを話すことがこの事件を早く解決する手段だと思うのですが、嫌なら名前を出す必要もないし、写真も拒否すればいいのです。個人個人の考え方が有るので私が一概に言えるわけでは有りませんが。知的障害者の施設ということで、世間が偏見の目で見ているということもあると思いますが、当局が（知的障害者の家族の心情を考え考慮した）との公表でしたが、それこそが差別ではないかと私は思います。そんなこともあり8月に入り報道各社（テレビ、新聞）が私の家に来るようになりました。そのおかげで（大学教授の先生方、国会議員の先生方、キャロラインケネディーアメリカ大使、トム、ハーキン元上院議員、等）にお会いし、激励されました。12月6日には、全国障害フォーラム（JDF）の全国大会において今年度の議題の（津久井やまゆり園の事件を考える）にパネラーとして参加致しました。そして、たくさんの方々から、激励のお手紙や、メール、電話等がくるようになりました。NHKテレビでは今後も私を通してこの事件の検証を追い続けると言っていますので、私もこの事件がいつまでも風化しないよう報道の方々に協力する積りです。

姿形がみにくくても言葉が話せなくても、目が見えなくても、耳が聞こえなくても、どんな障害をもっている、生きる権利は有るし、命も重さは人間みな同じなはずです。殺していい命など有るはずが有りません。私達は生涯、犯人（植松聖）を許すことは出来ないし、この事件を忘れてはいけないと思います。

障害をお持ちの方のご家族の皆様、特に知的障害をお持ちの方のご家族のみな様方、私たちの家族（障害をお持ちの方）は、みんな素晴らしい人たちです、この人たちを守れるのは、私たち家族です。其のことを心にきざみ、これからの、それぞれの人生を素晴らしいものにするよう努力しましょう。